

mitsubishi

CS-W2020SUH

据付説明書

本説明書はユニットの据付方法を記載してあります。

〔もくじ〕

※安全のために必ず守ること	1~3
※ユニット付属品	4
1. 据付け場所の選定	4
2. ユニットの据付け	6
3. 電気配線	8
4. 試運転方法	11
5. 異常表示	13
6. 電気回路図	14

据付説明書内で、安全のために必ず守っていただく項目を **⚠警告** **⚠注意** の形で記載しました。
安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。



警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。



注意

誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- お使いになる方は、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。

警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼してください。

- ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

据付工事は、据付説明書に従って確実に行ってください。

- 据付けに不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

据付けは、質量に十分耐える所に確実に行ってください。

- 強度が不足している場合は、ユニット落下により、けがの原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施行し、必ず専用回路を使用してください。

- 電源回路容量不足や施工不備があるとユニットが正常運転できなくなったり、最悪の場合、感電、発煙、発火の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

- 接続や固定が不完全な場合は、発熱、発煙、発火等の原因になります。

ユニットの端子カバー(パネル)を確実に取付けてください。

- 端子カバー(パネル)の取付けに不備があると、ほこり・水等により感電、発煙、発火等の原因になります。

台風等の強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。

- 据付工事に不備があると、転倒等による事故の原因になります。

据付けや移設の場合は、機器に表示されている冷媒(R134a)以外の異なった冷媒を入れないでください。

- 異なった冷媒や空気等が混入すると、冷凍サイクルが異常となり、破裂等の原因になります。

別売品は必ず当社指定の製品を使用してください。

- 取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

小部屋へ据付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。

- 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けてください。万一冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店または専門業者にご相談ください。

- 修理に不備があると水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。

- 冷媒ガスが漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

熱交換器のフィン表面を素手で触れないように注意してください。

- 取扱いに不備があると、切傷の原因になります。

保護装置の改造や設定変更をしないでください。

- 圧力開閉器や温度開閉器等の保護装置を短絡して強制的運転を行ったり、当社指定品以外のものを使用すると発煙、発火、爆発等の原因となります。

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気してください。

- 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

本ユニットの隙間や穴に金属類を差込まないでください。

- 故障、感電、発煙、発火等の原因になります。

製品を移動再設置する場合は、販売店または専門業者にご相談ください。

- ・据付けに不備があると水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。
- ・配管を外すとき、正しい作業を行わないと冷媒が急激に噴出し凍傷、火傷をすることがあります。
- ・冷媒を大気に放出すると、地球環境を汚染することになります。

据付け、点検、修理時は周囲の安全を確認の上作業してください。(子供は絶対に近づけないでください。)

- ・思わぬ事故の原因になります。

端子台カバーや絶縁シート等を外さないでください。取外してしまった場合は、必ず元どおりに取付けてください。

- ・感電、発煙、発火等の原因になります。

据付け(移設)をする前に

⚠注意

可燃性ガスの漏れるおそれがある場所への設置は行わないでください。

- ・万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。

食品・動植物・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

- ・食品の品質低下等の原因になります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けしないでください。

- ・湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、ユニットからも露が落ちる場合があります。

ユニットを倒して保管しないでください。

- ・圧縮機内の冷凍機油が冷媒配管内に流出して故障の原因になります。

病院などに据付けされる場合は、特にノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

- ・高周波医療機器などの影響によるユニットの誤動作や故障の原因になったり、ユニット側から医療機器へ影響を与え、人体の医療行為を妨げるなどの弊害の原因になります。

特殊環境では使用しないでください。

- ・油・蒸気の多いところや、酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等を頻繁に使用するところで使用しますと性能を著しく低下させたり、感電、故障、発煙、発火等の原因となります。

製品の運搬には、十分注意してください。

- ・20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。
- ・製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
- ・熱交換器のフィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
- ・ユニットの搬入を行う場合は、据付説明書の記載に従って作業してください。ムリな状態で運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因になります。

据付け(移設)・電気工事をする前に

⚠注意

アースに接続してください。

- アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火の原因になります。

電源配線は、張力がかけられないように配線工事をしてください。

- 断線したり、発熱、発煙、発火の原因になります。

電源にはユニット1台ずつ個別に必ず漏電遮断器を取付けてください。

- 適切な遮断器が取付けられていないと感電、発煙、発火の原因になります。
- 個別に取付けないと、1台の過電流で他の系統も遮断されます。

電源配線は、据付説明書記載のものをご使用ください。

- 漏電や発熱・発煙、発火の原因になります。

電源には必ずユニット1台ずつ個別に過電流遮断器および、手動開閉装置を取付けてください。

- 個別に取付けないと、1台の過電流で他の系統も遮断されます。
- 個別に手動開閉装置がないと、メンテナンス時に他の系統の電源も遮断する必要があります。

電源線を信号線端子台に接続しないでください。

- 製品の故障、発煙、発火等の原因となります。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。

- 感電、発煙、発火の原因になります。

本ユニット仕様書記載の使用環境外となるところには、設置しないでください。

- 変形、故障、発煙、発火等の原因となります。

漏電遮断器を本ユニット付近に設置ください。

- 万一本ユニットが漏電したときに、他の製品への影響が軽減されます。

正しい容量のブレーカーやヒューズ以外は使用しないでください。

- 大きな容量のブレーカーや針金・銅線を使用すると故障や発煙、発火の原因になります。

本ユニットを水洗いしないでください。

- 感電、発煙、発火の原因になります。

長期使用で据付台等が傷んでないか注意してください。

- 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、けが等の原因になります。

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。

- 配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

- 梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用している場合がありますので放置状態にしますと「さし傷」などの原因になります。
- 包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故等の原因になります。

配線を行う前に本ユニットおよび本ユニットと接続される全ての機器の電源を遮断してください。

- 感電、故障の原因になります。

電源配線、信号配線は、それぞれ結束したり、同じ金属管に収納したりしないでください。

- 誤動作の原因になります。

電子基板を手や工具で触ったり、ほこりを付着させないでください。

- 故障、発煙、発火等の原因になります。

試運転をする前に

⚠注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。

- 故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

濡れた手でスイッチを操作しないでください。

- 感電の原因になります。

お客様自身で廃棄しないでください。

- 廃棄時は、販売店または専門業者に相談してください。

製品を改造しないでください。

- 故障、感電、発熱、発火等、思いがけない事故の原因になります。

パネルやガードを外したまま運転しないでください。

- 機器の回転物、高温部、高電圧に触れると巻込まれたり、火傷や感電によりケガの原因になります。

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないでください。

- 運転中、停止直後の冷媒配管や圧縮機などの冷媒回路部品は流れる冷媒の状態により、低温と高温になります。素手で触れると凍傷や火傷になるおそれがあります。

ユニット付属品

本ユニットには下記同梱部品が付属されておりますので据付前に確認してください。

名称	個数
パッキン(上)	1
パッキン(下)	1
パッキン(右)	1
パッキン(左)	1

※ユニット取付時に、外形形状に合わせ貼付するパッキンとなります。

1. 据付け場所の選定

※ユニットは下記条件を考慮して据付場所を選定してください。

〈屋内環境〉

- 吹出空気が部屋全体に行渡るところ。
- 侵入外気の影響のないところ。
- 吹出空気、吸込空気の流れに障害物のないところ。
- 冷却対象物が本ユニットの全高より高い場合、本ユニット設置位置を高くするなどして、冷却対象物の排熱を吸込みやすいようにしてください。
- 本ユニットを屋内設置する場合で、特に機械室や外気侵入により湿度が高い雰囲気や設置されると、運転時にユニット外装パネルへの結露水が床面へ滴下する可能性があります。結露水の滴下による設備等の損傷については保証いたしかねますので、適切な環境へ設置するなどのご配慮をお願いいたします。
- 油の飛沫や蒸気のないところ。
- 可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれのないところ。
- 高周波を発生する機械のないところ。
- 吹出口側に火災報知器（センサー部）が位置しないようにしてください。
- 酸性の溶液などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 特殊なスプレー（イオウ系）などを頻繁に使用するところは避けてください。

〈屋外環境〉

- 他の熱源から直接ぶく射熱を受けないところ。
- ユニットから発生する騒音が隣家に迷惑のかからないところ。
- 強風が吹きつけないところ。
- 本品の質量（本体+別売品）に十分耐えられる強度のあるところ。また、取付け面の平坦度はユニット長手方向に対して2mm以下としてください。
- 次ページに示すサービス、風路スペースがあるところ。
他ユニットの吹出した冷気、暖気が本ユニットに吸込まれる、またはサービススペースが互いに干渉しあうことがないようにしてください。
なお、可燃性ガスの発生、流入、滞留、漏れのおそれがある場所では、火災をおこす危険性がありますので設置しないでください。
- 酸性の溶液や特殊なスプレー（イオウ系）を頻繁に使用する場所は避けてください。
- 外気10℃以下にて運転を実施する可能性がある場合は、ユニットの安定した運転を得るためにユニットに直接雨雪が当たらない場所を選定するか、フードを取付けるようにしてください。
- 油、蒸気、硫化ガスの多い特殊環境では使用しないでください。
- ユニット底面のドレン排水口をふさがないところ。

▲ 注意

ユニットから発生する騒音で隣家に迷惑のかからないように据付場所を選定してください。
また、場所によっては防音壁等の防音対策を行ってください。

▲ 注意

ユニット底面には、ドレン排水口がありますので、排水口をふさがないようにしてください。
排水口をふさぎますと、屋内へ水が侵入する可能性があります。

1-1. ユニットの質量に十分耐える強固な構造の壁に据付けます。

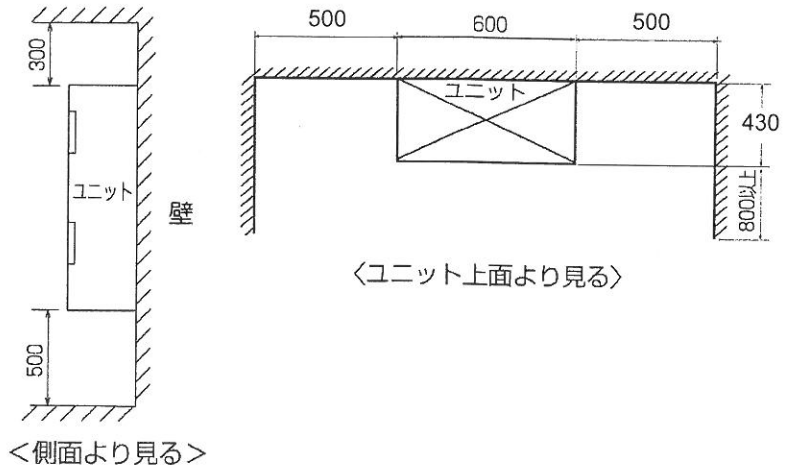
⚠ 警告

据付けは、質量に十分耐える場所に確実に行ってください。
強度不足の場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

1-2. 据付・サービススペースの確保

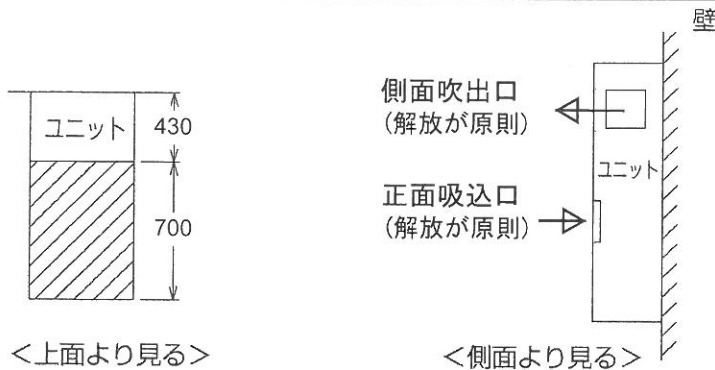
(単位 mm)

- ユニットの設置は、強固な壁を選定してください。
また、保守サービスが容易にできるように右図に示したサービススペースを必ず確保してください。

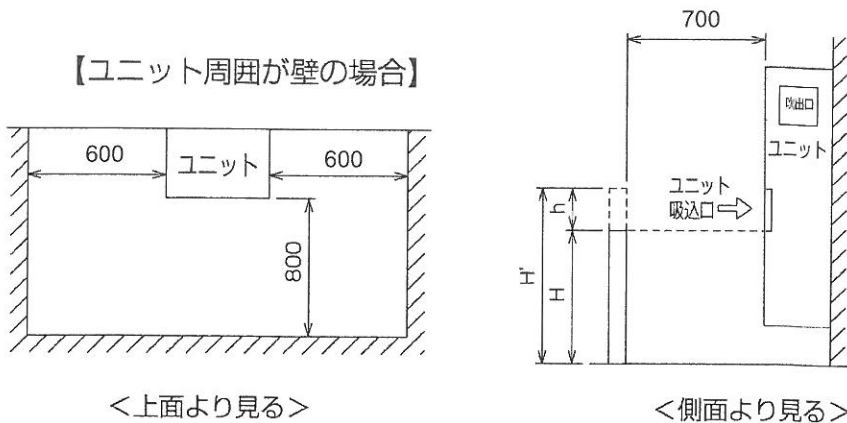


1-3. ユニットの周囲必要空間

(単位 mm)



【ユニット周囲が壁の場合】



(注) ユニット前の壁高さはユニット正面の吸入口下端高さ<H>以下のこと。

・ユニット前の壁高さが<H>の高さを超える場合は、上図のh寸法を800mmに加算してください。

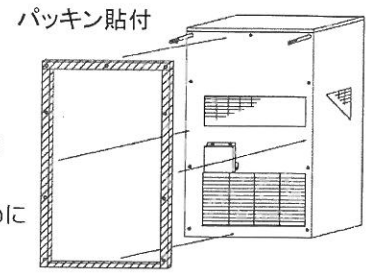
$h = \text{壁高さ} < H' > - \text{ユニット吸入口下端高さ} < H > = 100\text{mm}$ の場合

$800\text{mm} + 100\text{mm} = 900\text{mm}$ となります。

2. ユニットの据付け

※この時ユニット正面の吸込口のグリル、ユニット天面の吹出口のガードに手を掛けて、力を加えないでください。
 ※ユニットを傾斜させないでください。(横倒し厳禁)

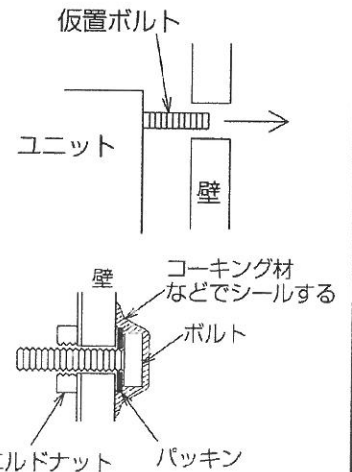
① ユニットの外形形状、及びM10ナット、M10ボルトに合わせ、付属のパッキンを貼り付けてください。 ※パッキンは上下左右で異なりますのでご注意ください。



② 設置する壁のユニット仮置ボルト用穴へ、ユニットの仮置ボルト2本を挿入し、ナットで締結してください。

※仮置のために、ユニット底面に架台を設ける際には、ユニット底面に傷、変形を避けるために養生をしてください。

※仮置用ボルトが壁より抜け、ユニットが落下しないように注意してください。



③ ユニット背面のウエルドナットへ、屋内側からボルトで締結してください。(7箇所)

※ボルト仕様は、下記のものをご用意ください。

ネジ仕様 メートル並目ネジ M10×1.5
 長さ 壁の厚さ+10mm以上、+20mm以下

※壁のボルト穴からの水侵入防止のために、パッキンなどで穴をシールしてください。

また、壁面のボルト穴は、全て(締結ボルト用×7箇所+仮置ボルト×2箇所)ボルト頭の上から水侵入防止のためにシールしてください。

※ボルトの締結は、25N・mで(目安としてユニット背面のシール材の厚さが3mm以下となるまで)締め付けてください。

注意

取付け面の平坦度は、ユニットの長手方向に対して2mm以下としてください。平坦度が悪いと、取付け後のユニット変形による水漏れ、異常音等の原因になります。

④ 壁の開口部より屋外の風を吸込まないように、また水が室内へ侵入しないように、ユニット背面周囲と壁面の間、および配線貫通部をコーキング材などでシールしてください。

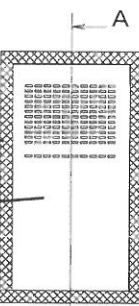
※ユニット側面のメンテナンス用パネルにコーキング材がかぶらないようにしてください。

<移設、再設置時>

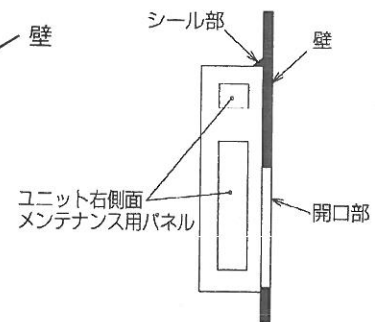
- ・古いコーキング材はきれいに取除き、再度コーキング材でシールしてください。
- ・ユニット背面のシール材は新しいものに貼り換えてください。

シール部(斜線部)

ユニット



<正面から見る>



<A-A断面>

警告

据付作業は確実に行ってください。
 重心位置が高いので転倒、落下の危険があります。

注意

コーキングは確実に行ってください。
 不完全な場合、水漏れの原因になります。

注意

コーキング材は、据付環境に耐えうる材質を選定してください。劣化による亀裂、破断は、水侵入、風漏れ等の原因になります。

注意

防水性能、防塵性能は、いかなる据付条件でも保証するものではありません。ご使用時には、冷却ユニットを実際に取付けた状態で注水評価等を実施し、問題がないことを確認してください。

<吹出グリルの取り外し方法>

・吹出グリルの取付向きを変えることで、屋内側の吹出し風向を変更することができます。

手順 1. 下図のように、吹出グリルを上方に持ち上げながら手前に引くことで、取り外すことができます。

手順 2. 同様の手順で、8枚の吹出グリルを取り外してください。

手順 3. 風向に合わせて、吹出グリルの向きを変更し、取付けてください。

風向は、上向きにはしないでください。

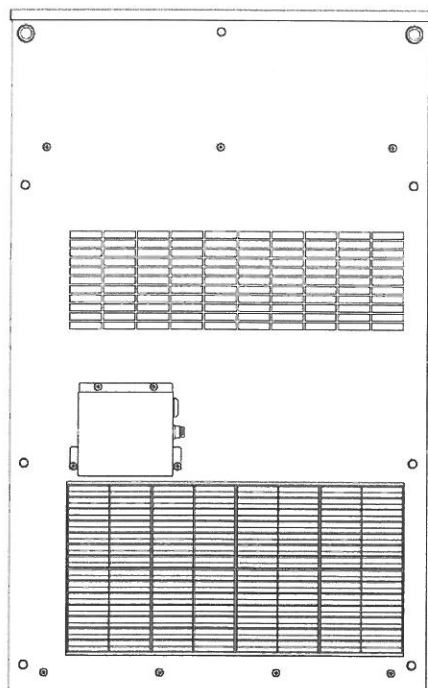
<注意>

● 吹出グリルを取り外す際には、必ず、吹出グリルを上方に持ち上げながら、取り外してください。

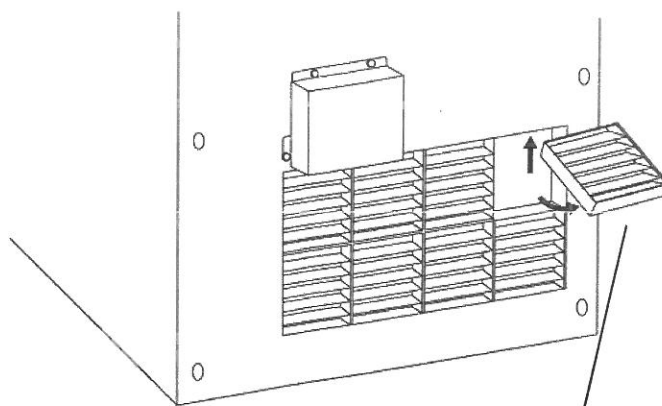
持ち上げずに作業した場合、グリルの固定用のツメを破損させる恐れがあります。

● 風向を変更する際、風向は、上向きにはしないでください。

ショートサイクルにより、冷却能力の低下等、ユニットの運転に支障をきたすおそれがあります。



<製品背面>



吹出グリル
※上方に持ち上げながら手前に

3. 電気配線

電気工事についてのご注意

1. 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、電力会社の規定、および本据付説明書を十分確認してください。
2. 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

⚠ 警告

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路に容量不足や施工不備があるとユニットが正常運転できなくなったり、他の機器に影響を与えたり、最悪の場合、感電、発煙、発火等の原因になります。

3. 電源は必ず専用の分岐回路からとってください。
4. 交流電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。また、配線作業時は、必ず電源遮断した状態で作業してください。直流電源には、必ず過電流遮断器を取付けると共に、手動で電源遮断できるようにしてください。
5. ユニットの外部では、制御回路の電線と電源配線が直接接触しないように5cm以上離して施工してください。
6. 配線の接続はネジの緩みのないように確実に行ってください。
7. 配線（電源、制御線）はネズミ等により、かじられ切断する場合がありますので、できる限り鉄管等の保護管内に通してください。
8. 誤配線しないように注意ください。（故障します。）
9. D種接地工事を行ってください。
10. 直流電源装置は、プラス相が接地されたものを使用してください。
11. 配線は屋外で使用できる線種を選定してください。

⚠ 注意

確実にアースを行ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火およびノイズによる誤動作の原因になります。

3-1. 電源配線

電源	AC 200V	
電動機出力	0.55kW	
電源配線太さ	2.0mm ²	
アース線太さ	2.0mm ²	
漏電遮断器	容量	15A
	定格感度	30mA 0.1s以下

注1.配線要領は内線規程<JEAC8001>に従ってください。

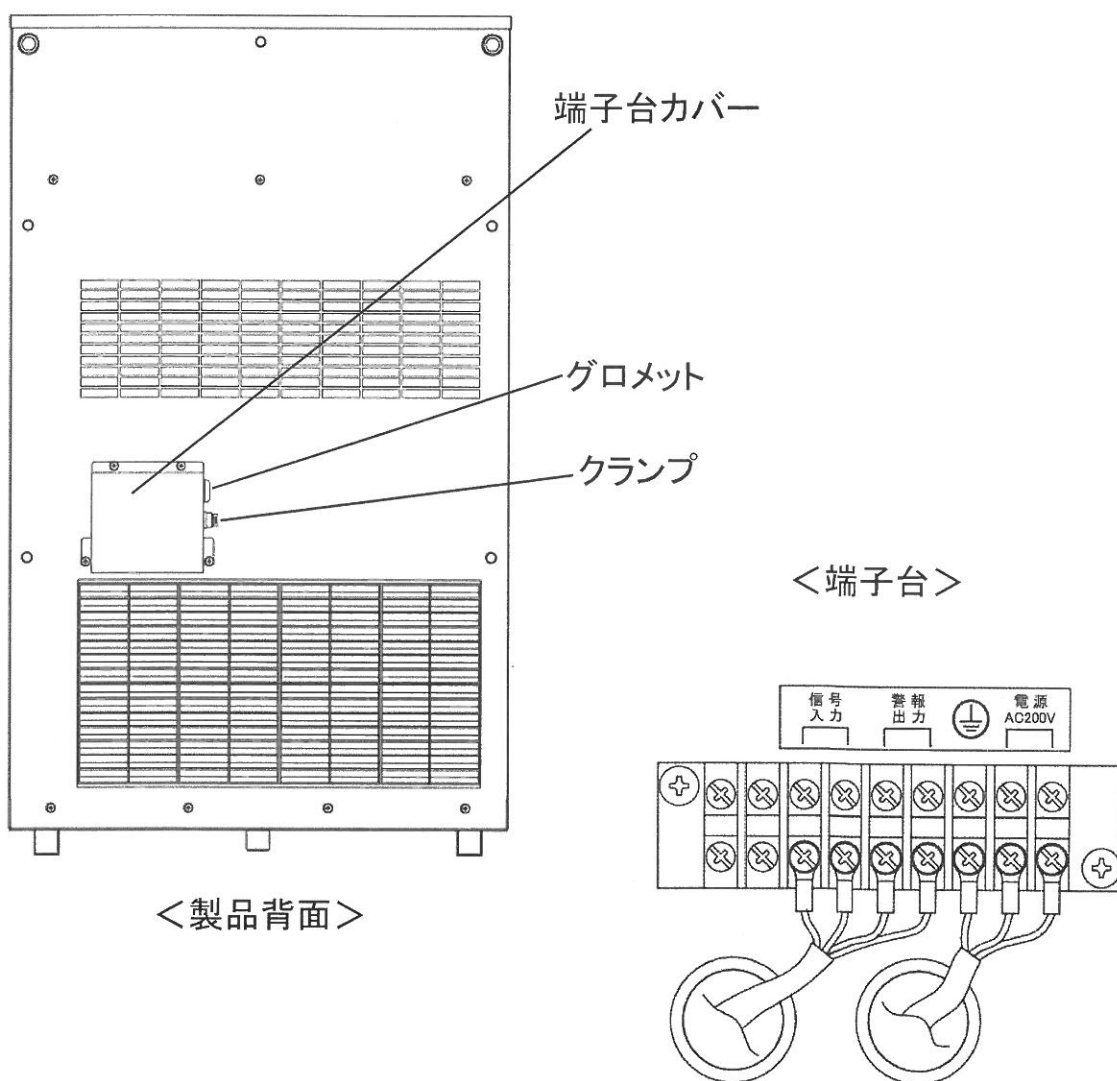
2.配線太さは、金属配管・合成樹脂管配線(挿入電線数3本以下)の場合の最小値を示します。

⚠ 注意

正しい容量のブレーカーやヒューズ以外は使用しないでください。大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や発煙、発火の原因になります。

3-2. 電気配線接続（端子のネジのゆるみのないよう注意してください。）

- 手順 1. 端子台のカバーを、本体から取り外してください。
- 手順 2. 電源線、アース線など、本体に接続する全ての配線を、端子カバーのグロメットに通してください。
- 手順 3. 指定の端子台に接続してください。
- 手順 4. 端子台のカバーを、本体へ取付けてください。
- 手順 5. 配線を端子台のカバーのクランプにより固定してください。



3-3. ユニット外部入出力配線の接続

(1) 異常接点出力

① 異常出力は、以下の通り接続してください。異常時に ON となります。

・ユニット異常出力：端子台 TB1 の 4、5 番端子

② 内部接点仕様は以下の通りです。余裕をもったシステム設計をお願いします。

・抵抗負荷：AC 250V 2A
DC30V 1A

・誘導負荷：AC 250V 1A
DC30V 1A

(2) 湿度信号入力

① 湿度調節器を利用する場合は、以下の通り接続してください。

・湿度信号入力：端子台 TB1 の 6、7 番端子

ただし、基板への制御信号入力の為、無電圧接点信号に限ります。

※有電圧を入力すると基板が故障します。

4. 試運転方法〔取扱説明書も一読ください〕

- ユニット据付け、配線作業終了後、冷媒漏れ、配線誤接続、電源、伝送線のゆるみ、極性間違いがないか今一度確認してください。
- 電源端子台と大地間をDC500Vメガーで計って1.0MΩ以上であることを確認します。1.0MΩ未満の場合は電源投入しないでください。 ※電源用以外の端子台の絶縁抵抗測定は絶対にしないでください。
- 試運転操作手順については、以下を参照してください。
- 外部入出力を使用する場合は、機能チェックを以下に従って実施してください。

(1) 試運転操作手順

試運転準備

操作内容	動作および注意事項
① 12時間以上前に、電源を通电してください。	圧縮機のクランクケースヒータを通电させ、寝込み冷媒を解消させます。 電源を通电することで、室内ファンが運転しますので、ご注意ください。(SW5がON(運転モード)の時。出荷時は、OFF設定)
② 下パネルと制御箱蓋を取り外してください。(下図参照)	基板上的のスイッチ操作が可能となります。

試運転モード

操作内容	動作および注意事項
① 基板上的のスイッチ SW5(運転スイッチ) をONの状態にしてください。(次ページの図を参照)	通常の運転モードとなります。 室内ファンが運転しますので、ご注意ください。
② ディップスイッチSW4-1 をOFFからONにしてください。 SW4-1の、OFFからONへの移行を、 試運転開始判定としております。	『試運転モード』(圧縮機試運転モード) に移行します。 ※自然循環試運転モードへは、試運転中に、SW4-2をONにすることで移行します。 (SW4-2 : OFF/圧縮機試運転、ON/自然循環試運転)
③ ディップスイッチ4-1 をOFFにしてください。	『試運転モード』を終了し、通常運転に戻ります。

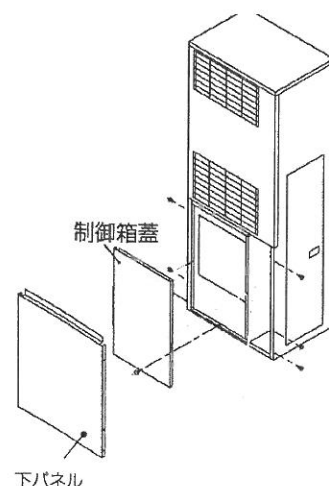
※試運転モードでは、サーモON/OFFの条件によらず、サーモON運転を行いません。

試運転モード中に、「SW4-1」をOFFにすることで、試運転モードを終了します。

また、試運転モードは、約20分で、通常運転モードに戻ります。再度、試運転モードに入る場合は、SW4-1を一度、OFFしてから、もう一度、ONにしてください。(スイッチのOFFからONへの移行を試運転開始判定としております)

<注意>

- 試運転中に異常が発生した場合は、試運転モードを終了し、異常表示を行いません。
- 制御箱内には、充電部があります。スイッチ以外は触らないでください。
- 圧縮機の保護の為、3分未満での圧縮機試運転モード⇄自然循環試運転モードの切替は、おこなわないでください。
- スイッチ SW5 が、OFFの状態では、電源が投入されていても、運転動作は開始されません。(クランクケースヒータは通电状態となります。)



(2) 外部出力の確認手順

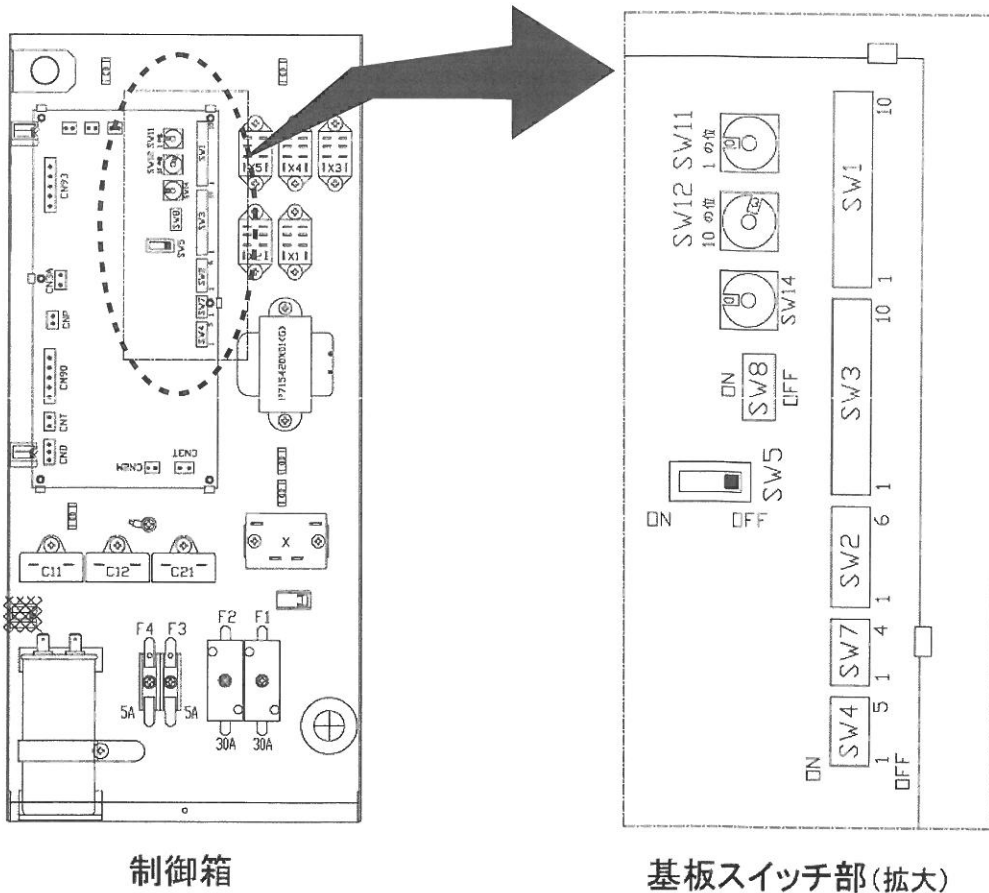
<確認を始める前に>

- お客様のサービスセンターへの異常信号が正常に発報されるかを確認しますので、事前にお客様のサービスセンターへ故意に異常発報させることを連絡してください。
- 異常発報の確認は、試運転で問題ないことを確認してから行ってください。
- 雨天時は、実施しないで下さい。ユニット内に浸水すると、故障の可能性があります。

ユニット異常発報の確認

ユニットの異常信号を擬似的に発報させるモードを利用して、確認することができます。

操作内容	動作および注意事項
① 基板上的スイッチ SW5(運転スイッチ) をONの状態にしてください。	通常の運転モードとなります。
② ディップスイッチSW4-5を OFFからONにしてください。	擬似的に、異常出力をおこないます。 お客様のサービスセンターへ異常出力を検知したか、ご確認ください。
③ ディップスイッチSW4-5を OFFにしてください。	異常出力を停止します。



5. 異常表示/スイッチ設定

◆ 異常表示

・異常発生時、制御箱内のランプの点灯(点滅)により異常をお知らせしますので、不具合要因の点検をお願いいたします。

点検表示	不具合内容
点灯(継続)	異常一括 (熱動温度開閉器<圧縮機 49C>/圧力開閉器<高圧 63H>)
2秒点灯 → 消灯(2秒)を反復	温度センサー異常(盤内温度(吸込温度)計測用<TH1>)
4秒点灯 → 消灯(2秒)を反復	温度センサー異常(盤外温度(外気温度)計測用<TH2>)
6秒点灯 → 消灯(2秒)を反復	温度センサー異常(除霜用(配管)温度計測用<TH3>)
8秒点灯 → 消灯(2秒)を反復	除霜動作/除霜異常

◆ スイッチ設定値

<初期設定値> ※SW1~8の設定値は、「0: OFF」、「1: ON」となります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
SW 1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0

	1	2	3	4	5	6
SW 2	0	1	0	1	0	0

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
SW 3	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0

	1	2	3	4	5
SW 4	0	0	0	0	0

	1
SW 5	0

※「1」にて運転開始。

	1	2	3	4
SW 7	1	0	0	0

	1	2	3
SW 8	0	0	1

SW 11	0
-------	---

SW 12	3
-------	---

SW 14	0
-------	---

} 温度設定値(左記設定の場合 30℃。SW12:10の位、SW11:1の位)

6. 電気回路図

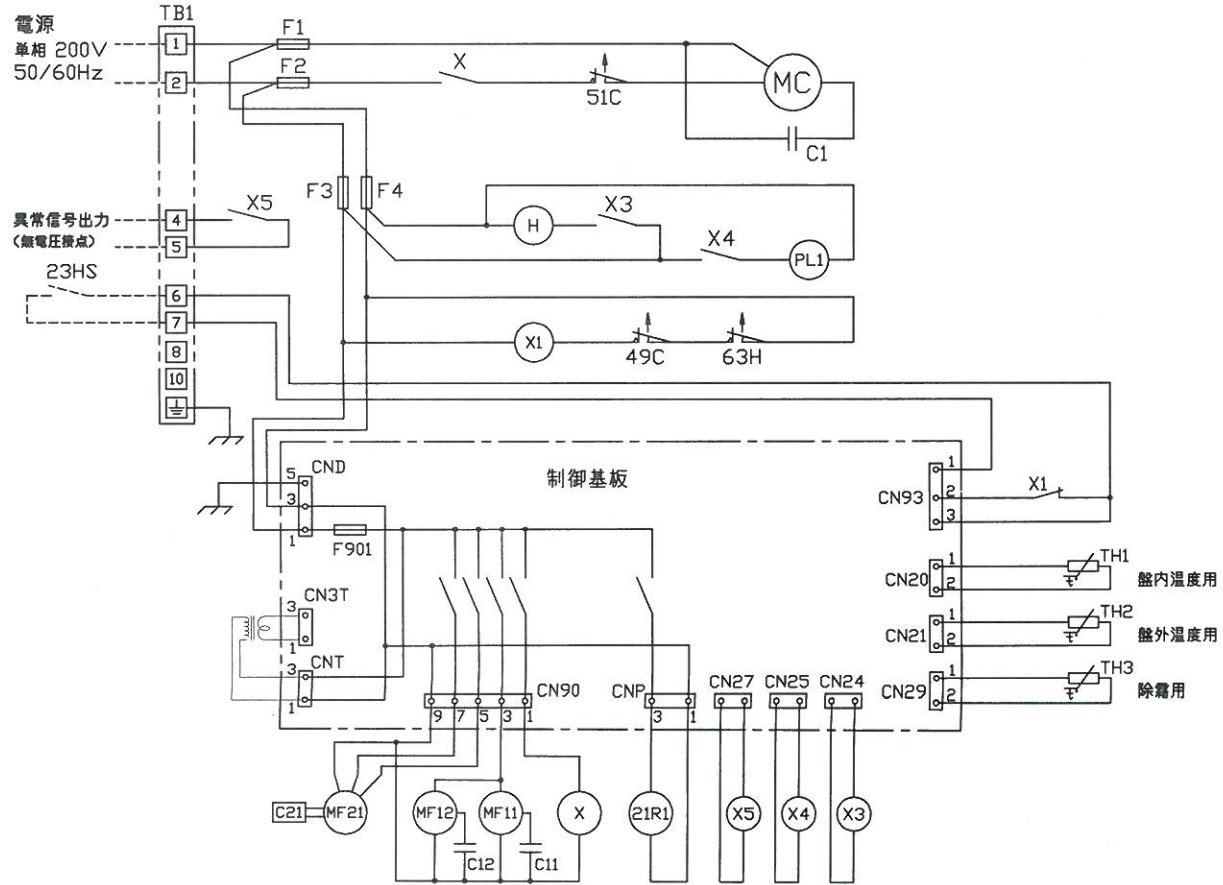
CS-W2020SUH
電気配線図

記号	名称
C1	コンデンサ<圧縮機>
C11,C12	コンデンサ<送風機<室内用>>
C21	コンデンサ<送風機<室外用>>
F1,F2	ヒューズ<圧縮機:30A>
F3,F4	ヒューズ<制御回路:5A>
F901	ヒューズ<基板回路:6A>
H	電熱器<クランクケース>
MC	圧縮機用電動機
MF11,MF12	送風機用電動機<室内側>
MF21	送風機用電動機<室外側>
PL1	表示灯<赤><異常表示用>
TH1	サーミスタ<室内温度用>
TH2	サーミスタ<室外温度用>
TH3	サーミスタ<除霜用>
X	補助継電器
X1	補助継電器
X3	補助継電器
X4	補助継電器
X5	補助継電器
21R1	電磁弁<自然循環運転用>
<<23HS>>	湿度調節器
49C	吐出管サーモ
51C	熱動過電流継電器<圧縮機><イナサート>
63H	圧力開閉器<高圧>

記号欄の<< >>は現地手配部品となります。

注1. ---- 破線は現地配線を示します。

注2. 23HS<湿度調節器>を利用する場合は、端子台[6]、[7]に接続してください。ただし、基板への制御信号入力用の為、無電圧接点信号に限ります。(<=有電圧を入力すると基板が故障します>)



三菱電機冷熱応用システム株式会社

〒640-8686和歌山市手平6丁目5番66号

(三菱電機(株)冷熱システム製作所内)